

にほんのものづくり物語

禅とハーブ

伝統に培われた技を
新しい発想に生かすと
「ものづくり」の
可能性が広がる

1934（昭和9）年、雲仙や霧島とともに日本で最初に国立公園に指定された瀬戸内海国立公園。その特徴は日本一の広大さと「内海多島海景観」、人と自然の共存による、だんだん畑や港町などの「人文景観」だと言われます。そんな風光明媚な土地に、日本の精神的象徴の一つでもある「禅」と、温暖な気候を生かし栽培する「ハーブ」の異色のコラボレーションで、問題を抱える人たちの社会的自立を応援する施設があります。

今回は、香川県高松市に喝破道場自立塾の野田大然さんを訪ねました。



の だ い ね ん
野田大然さん

公益財団法人 喝破道場自立塾塾長
1982年 1月31日生まれ
2004年 大本山永平寺 安居
07年 大本山永平寺 送安
公益財団法人喝破道場勤務
10年 自立塾塾長に就任

モノが溢れかえる昨今、大自然の中でシンプルな生活をしながら、気力と体力、精神力、そして自分らしさを取り戻し、塾生が自信を持って堂々と未来への一歩を踏み出すお手伝いをしております。

問い合わせ先
公益財団法人 喝破道場
〒761-8004
香川県高松市中山町1501の9
TEL: 087・882・4022
FAX: 087・881・5906
<http://www1.ocn.ne.jp/~jiritsu/>

喝破道場は、高松市の西、標高400mの「五色台」に位置しています。40年前、サラリーマンから出家し、曹洞宗の修行を積んだ大然さんの父、大燈さんが、父祖から受継いだ土地に禅道場を開いたのが、その始まりでした。寺も檀家もない、収入もないから、もらい受けた大きな醤油樽の中で座禅を組み、自給自足の畑を耕す日々が続きました。そんなある日、道に迷った一人の若者と出会います。興味を持った若者は毎日通ってくるようになり、2人で畑仕事や座禅をするようになりました。それから一人二人と手伝いにやってくる若者が増え、五色台に面白いお坊さんがいるという噂が広がるとともに、支援をしてくれる方も現れ、1975年、さまざまな問題を抱えた若者を受け入れる「喝破道場」が出来上がりました。現代版「日本むかし話」のような本当の話です。

若者たちの顔ぶれは時代を反映し、70年代は社会問題化し始めた不登校生、80年代はブームとなった「積み木くずし」のような非行生徒、90年代はニートや引きこもりへと移り変わりました。道場では、禅の修行を取り入れた自給自足の集団生活の中で、さまざまな体験をしながら、社会人として生きる自信と意欲を身に付けることを目的としています。3カ月～半年、長い人は数年、8人ほどの仲間が寝食を共にして、併設するハーブ園での作業やカフェでの接客を通じ、適合性を身に付けていくのです。禅とハーブという異色の組み合わせの始まりは、ミ

ントでした。

いつも落ち着きがない統合失調症のお子さんに、ミントの周辺の草むしりを指示したところ、人が変わったように作業に集中し、やり遂げることができたのだと言います。ハーブの精神安定効果は一般的にも知られていますが、ハーブを栽培することの心理的効果に改めて気づき、起床後の座禅、仲間とコミュニケーションとともに道場の自立支援の柱となりました。

2006年には青少年の受け入れが厚生労働省の正式な委託事業となり、07年からは永平寺で修行を積んだ大然さんも塾長として関わることになりました。3年前からは高松市より就労体験のボランティア事業を委託され、週3回就職活動中の方の受け入れも行っています。気力・体力・精神力が衰えがちでも、ボランティア活動に参加すると、引きこもることなく、情報交換ができ、作業をすることで体力も維持できます。



道場では今、ドクダミ、キビ茶、ウコンなど日本古来の作物の栽培も始め、製品化やカフェの運営まで積極的に事業拡大に取り組んでいます。「禅ハーブ」ブランドもその一環。化学肥料や農薬を一切使わないハーブティーは、園内のハーブカフェ「ゼルコバ」で味わう他に通信販売でも購入が可能。また、現在農地の半分を占めるローズマリーは、減圧蒸留という最新の技術で、「ローズマリー蒸留水」をたっぷり含んだ美容マスクになりました。「カフェがにぎわい、製品が広まってくると、道場の卒業生やボランティアで関わった人たちの雇用促進にもつながるので、もっともっと自分たちの作るものの良さを伝えていきたいのです」と野田塾長の夢は広がります。

大量には供給されなくても、思いのこもったものを生産者の顔を思い浮かべながら大切に使う楽しみ。これからの日本の「ものづくり」を支えていくのは、その心意気なのかもかもしれません。

zen herb
ローズマリーの夢ごこちマスク
3枚入り 1200円（税抜き）
発売元
セブンオーシャンズトレーディングス(株)
問い合わせ TEL: 082・545・7723
<http://hiroshima-lemon.com/>
商品企画株式会社グランデュール
www.grandeur-gd.co.jp/